

日本助産学会ニュースレター

巻頭言

第18回日本助産学会学術集会へのお誘い

— 喜びとともに生まれる、その先の助産ケア。Joyful Midwifery With Women —

第18回日本助産学会学術集会会長

松岡 恵

第18回日本助産学会学術集会は2004年3月6日(土)・7日(日)に、東京で開催致します。本学会のメインテーマは「喜びとともに生まれる、その先の助産ケア。Joyful Midwifery With Women」です。

今回のメインテーマは、日本語版に英語版を併記しましたが、英語版は日本語版の直訳とはなっていません。英語版では、10年後には助産師活動はこうありたいという姿を提示しています。それは、助産師が女性とともにある専門職として、女性と家族の喜びのために働き、助産師自身も喜びを持って女性と家族のために働いている、現在よりもさらにパワフルで幸せな女性と助産師のあり方です。

それに対し日本語版は、皆さん一人一人が今現在直面している課題を解決し、Joyful Midwifery With Womenに至るための糸口を提示しました。ですから、日本語版には、いろいろな意味合いが含まれます。「喜び」とは誰の喜びなのか?どのような「喜び」なのか?「生まれるもの」は何なのか?どこから、誰から、「生まれる」のか?「その先」とはどの先なのか?それが意味するものは、皆さんが今直面している課題によって違います。しかしながら、目指しているものは共通しています。すなわち、女性と家族の喜びであり、女性のために働く助産師と女性とのJoyfulな関係です。

この学術集会が、10年後のあなたのJoyful Midwifery With Womenのために、あなたが直面する問題の糸口を探し、明日のケアに役立つ何かをつかめる場となれるよう、現在、企画委員一同は準備をすすめております。

第一日目には、助産師が女性とのよいパートナーシップを築き、まさにJoyful Midwifery With Womenを実現しているニュージーランドの助産師活動について、ニュージーランド助産師協会会長のSandy Grey氏にご講演いただきます。ニュージーランドのこれまでの歩みや現在の活動の中から、日本のさらなるJoyful Midwifery With Womenへの糸口が見えることを期待しています。そしてシンポジウムでは、日本の助産師と女性がこれまで行ってきた「よりよい出産と育児のための活動」を振り返り、今後の課題を明らかにしていきたいと考えています。

第二日目は、シンポジウムでの現状分析を受け、6つのテーマを設定して「その先の助産ケア」を考えるワークショップを企画しました。それぞれのテーマごとに現状とその先について活発な意見交換を行いたいと考えています。いくつかのワークショップでは、明日のケアに直接役立つセッションとするために、参加者全員で演習や作業を行う文字通りのワークショップも企画しています。そして一般演題の発表は「研究」と「実践報告」の二本立てとしました。皆様の研究、実践活動から得られた知見を共有し、さらにその先の取り組みにつながる活発な討論を展開していきたいと考えます。

さあ、「こんどの春は、勇気をもらいに、学術集会に行こう。」

助産所研修記 その2

～本当の技とは？～

聖路加看護大学大学院修士課程 母性看護・助産学専攻
今村 朋子

これまで私は「技」といえば、会陰保護などの手技的なものを想像しており、助産師はそれを身につけることが大切だと感じて、助産所での研修に期待していました。しかし助産所の中で学んだものは、助産師の神業的な会陰保護ではなく、全く違うものでした。

ある産婦さんの出産の時、助産師は児頭にも会陰にもほとんど手を触れることなく、生まれてくる赤ちゃんをそっと受け止めていました。たった一言「赤ちゃんを、よく感じて産むのよ」と、絶妙のタイミングでささやいただけで、そこには努責の指示も会陰保護もありませんでした。産婦さんは、児の生まれてくる力と張り裂けそうな会陰を感じながら、会陰が張って痛いときは力を抜き、自分自身でスピードを調節しながら、ゆっくりと赤ちゃんを産み落としたのです。そして、裂傷が無かったという結果よりも、彼女が「体の中を通ってくる赤ちゃんをしっかりと感じて、お産の出来事を味わった」という感想を語っていたことがとても印象的でした。

また別の産婦さんは、会陰裂傷を予防することには全くこだわっておらず、出産の時にはいきみを我慢したくないと考えていました。お産は彼女のペースで進み、結果的に裂傷はありましたが、「いきんでる時はものすごく気持ちいい、すごく幸せだった。それを我慢なんてできないと思った」と語り、深い満足感を感じていました。

ここでは、出産で何を一番大切にしたいかは、産婦さん自身が決定していました。主体はあくまでも産婦さんにありました。助産師は、決して自分の手技に相手を当てはめて、うまく産ませようとするのではなく、産む人に自分を合わせていました。

こうした様々なお産に出会う中で、これまで私が「技」と思い込んで求めていたものは、単なる分娩介助のノウハウで、「技術」といえるものであることに気づきました。会陰保護という助産師独自の技術主義に陥り、自分の手技を用いて出産に介入していたといえるでしょう。出産にひとつ介入して自然の流れを変えると、また次の介入が必要になるといふ連鎖が生じることを、私たち助産師は知っています。それは医療処置だけではなく、助産の技術にも同じことが言えるのではないのでしょうか。会陰保護を行ない、助産師の技術主体で出産を導こうとすれば、体位を固定し、努責を指示し、児頭を調節し…様々な介入を行なう中で、産婦自身の感覚や主体性はどんどんと奪われてゆきます。

本当の「技」とは、介入を重ねることではなく、自分の中の不要なものを省くこと、無の境地に近づくことが必要だと考えるようになりました。それができてはじめて、お産の自然の現象を深く見つめることができ、相手に寄り添うことが可能になるのだと思います。今回の助産所研修の中で、「技」とは決まった形がなく、相手に合わせて七変化するものだというのを知りました。だからこそ、それを捉えることは難しく、そして、だからこそ助産は面白いことを実感することができました。

「いいお産の日」2003年のご案内

11月3日の「いいお産」のプロジェクトに助産学会は、健やか親子21の団体としてブースを出します。

次世代育成支援 「いいお産の日」2003

日時：11.03（祝）10：00～15：00

場所：日本教育会館

一ツ橋ホールおよび8階

東京都千代田区一ツ橋2-6-2

プログラム：

●3F一ツ橋ホール 13：00～15：00

いいお産オリジナル劇「私らしいお産」御安産一座

いいお産の日トーク 「いのちは愛からうまれる。」

ゲスト：三田 寛子（女優）

三砂ちづる（疫学者・国立保健医療科学院
疫学部応用疫学室長）

聞き手：龍村 仁（映画監督）

参加無料 全席自由 事前予約必要
主催－厚生労働省／(財)こども未来財団
共催－特定非営利活動法人
いいお産プロジェクト
後援－健やか親子21推進協議会
協賛－(社)農山漁村文化協会／
大地を守る会

いいお産の日2003事務局

〒069-0074

東京都新宿区北新宿1-29-11-809

TEL/FAX：03-3227-3330

<http://www.iiosan.jp>



BABY in ME マタニティバッジ

理事会において支援することに決まりましたのでご紹介します

千代田区で母子手帳と一緒に贈呈中！

BABY in ME について

BABY in ME は、私：村松純子が、1999年よりインターネットのホームページ <http://www.baby-in-me.com/> を通して個人で提案・展開しております‘マタニティのシンボルマーク’です。

妊娠中、特におなかの目立たない妊娠初期は、周囲の方々から分かってもらいにくく、「乗り物の中で気分が悪くなくても、席を譲ってもらえない」、「近くでタバコを吸われてしまう」など、みなさんとても辛い思いをされています。のみならず、妊娠初期は、おなかの赤ちゃんにとっても非常に大事な時期であり、かけがえのない命への影響も心配です。そんなとき、‘マタニティのシンボルマークのようなものがあれば、周りにもさりげなく妊娠をアピールできるのでは…’ と思い、このマークを発案しました。

ホームページ開設からおおよそ4年を経ました現在、ページのアクセス数も約16万件を数えるまでになりました。また、今年6月からは千代田区にて母子手帳と一緒にBABY in ME マタニティバッジの贈呈も始まり、同時に、区内各所に呼びかけのポスターも掲示されています。その他、墨田区および港区でも、各区が母子手帳と同時に配布している小冊子にBABY in ME の紹介文を掲載してくださっています。近く（この秋から）、釧路市役所でも、ミニステッカー配布開始が予定されています。

知名度も徐々に高まってきたマークではございますが、個人での展開ということもあり、自治体等への働きかけは、どうしても充分に行えずにおります。これを機に、皆様にも BABY in ME のことを知っていただき、もしよろしければ何かの折にでも、お力をお貸しいただきましたら幸いに存じます。

どうぞよろしく願いいたします。

- ・ BABY in ME のマークは、日本助産師会東京都支部でも、ご推奨いただいています。
- ・ 日本助産学会理事長 堀内成子先生（聖路加看護大学教授 看護学博士）からも「BABY in ME の活動は、私も応援しています。優しい社会づくりのためにも、みなさんご協力よろしく願います！」と応援いただいています。

BABY in ME

村松純子

TEL&FAX：03-3583-1939

e-mail babyinme@baby-in-me.com

「健やか親子21」第2課題への 日本助産師会の取組みについて

社団法人 日本助産師会 事務局長
岡本喜代子

平成13年に10年後を見据えたわが国の母子保健施策の国民運動として開始し、「健やか親子21」国民運動が展開されている。主な課題はこの運動の推進を目指して、「健やか親子21」推進協議会が設置された。毎年1回総会を開催している。主要課題は以下の4課題である。

- 1) 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進
- 2) 妊娠・出産に関する安全性と快適性の確保と不妊への支援
- 3) 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備
- 4) 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減

本会はその第2課題（妊娠・出産に関する安全性と快適性の確保と不妊への支援）の幹事会になった。幹事会は3～4ヵ月に1回程度開催され、開業助産師と病院・診療所との連携やパースプランの普及等が討議されている。

今回は、日本助産師会のこの第2課題への具体的な取り組みについて紹介したい。本会では、以下の7つの活動を展開している。

1. 助産所分娩の評価について

現在、徳島大学保健学科竹内美恵子教授を中心に調査票を検討中である。

平成15年度の助産所分娩の半数を対象に実施予定である。

2. 助産所部会役員会活動

- 1) 分娩を扱う開業助産師活動の検討
- 2) 産科におけるリスクマネジメント研修会の企画・運営
平成16年2月12日～13日（東京にて開催）

3. 安全対策委員会活動

- 1) 助産所の機能評価表を検討中、本年度中にモデルケースとして数箇所を実施予定。
- 2) 助産所における医療事故事例および対応の検討

4. 安全対策室の開設

平成15年9月5日（金）より、毎週金曜日10：00～16：00に本会分室にて電話および来所（予約制）に専任スタッフが対応する。助産所に関する意見、クレーム、相談事に応じる。対象は、一般の方、開業助産師の両方である。

安全対策室のスタッフは安全対策委員会に出席し、委員会と密な連携をとりながら、実施する。

5. 「開業助産師と病院・医院とのネットワーク推進のための検討委員会」（平成15年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業）の開催

この検討委員会で、嘱託医、嘱託医との約束規定、嘱託医療制度、医院（診療所）における助産師不足の対応等について検討中。5回開催し、今年度中に提言に結びつく報告書を作成予定である。

6. 平成13～14年度厚生科学研究「助産所における安全で快適な出産環境の整備に関する研究」（青野敏博委員長）で提案されている「助産師活動指針」、助産所で取り扱う症例の基準（助産所における適応症リスト）、搬送のガイドライン（正常分娩急変時のガイドライン）の普及分娩を取り扱っている全開業助産師に配布予定。

7. 救急時の実践力強化のための研修会の開催（平成15年度厚生労働省看護職員確保対策特別事業）

平成15年9月19日～21日（3日間）、徳島大学において、演習に重点をおいて実施した。約60名が参加し、新生児の挿管、CTG所見の評価等の演習を行った。

今後とも、最も重要な取組課題として、継続的に内容の充実に努める所存です。積極的な、ご支援をよろしくお願いいたします。



Joyful
Midwifery
With Women
2004 in tokyo

Japan Academy of Midwifery

第18回日本助産学会学術集会 第2報

第18回日本助産学会学術集会の第2報をお届けします。多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

第18回日本助産学会学術集会会長 松岡 恵

■ 1. 期 日 2004年3月6日(土)～7日(日)

■ 2. プログラム概要および開催会場

●第1日 3月6日(土) 東京大学安田講堂

会長講演	13:00～13:40 「喜びとともに生まれる、その先の助産ケア。」 ・ 演者：松岡 恵 (東京医科歯科大学) ・ 座長：宮中 文子 (京都市立医科大学)
招聘講演	13:40～15:10 「Joyful Midwifery with women in New Zealand」 ・ 演者：Sandy Grey (ニュージーランド助産師協会会長) ・ 座長：堀内 成子 (聖路加看護大学 日本助産学会理事)
総 会	15:10～16:10
シンポジウム	16:10～18:00 「喜びにあふれた出産・育児のために」 ・ 演者：赤山美智代 (助産師ネットワーク JIMON代表) 奥山千鶴子 (NPO法人びーのびーの代表) 栗原 美幸 (子育て支援サイト 子育てワハハ主宰) ・ 座長：平澤美恵子 (日本赤十字看護大学) 片桐麻州美 (神奈川県立保健福祉大学)
懇 親 会	18:30～20:30 学士会館 (分館)

●第2日 3月7日(日) 学術総合センター・学士会館 (本館)

- 一般演題発表及び6つのワークショップ 9:30～11:30、13:00～17:00
- その先の助産ケアー連携から生まれる母子の安全保証 9:30～11:30(学術センター)
 - ・ 演者：村上 睦子 (日本助産師会) 山本 詩子 (山本助産院) 福井トシ子 (杏林大学医学部付属病院)
 - ・ 座長：神谷 整子 (みづき助産院) 藤木佳代子 (東京医科歯科大学医学部附属病院)
 - その先の助産ケアー国際協力に通じる助産師の能力とは 13:00～14:50 (学術センター)
 - ・ 演者：小山内泰代 (国立国際医療センター) 立山 恭子 (日本キリスト教海外医療協力会)
 - ・ 座長：毛利多恵子 (日本助産学会国際援助システム委員会)
藤原 美幸 (日本助産学会国際援助システム委員会)

- その先の助産ケア-助産の喜びを見いだす助産師を育てる 13:00~14:50(学会館)
 - ・演者: 宍戸 あき (日本赤十字社医療センター) 新崎 早苗 (愛育病院)
 - 加藤 麻紀 (湘南鎌倉総合病院)
 - ・座長: 川島 広江 (川島助産院) 塩野 悦子 (宮城大学)
- その先の助産ケア-改めてエビデンスに基づいたアロマセラピーを学ぶ 15:00~16:50 (学会館)
 - ・演者: 林 真一郎 (グリーンフラスコ) 黒川寿美江 (聖路加国際病院)
 - ・座長: 井村 真澄 (聖路加国際病院)
- その先の助産ケア-母子相互作用の視点を毎日のケアに取り入れる 15:00~16:50 (学術センター)
 - ・演者: 広瀬たい子 (東京医科歯科大学)
 - ・座長: 佐々木和子 (国立看護大学校)
- その先の助産ケア-自己の理解を相互のエンパワメントにつなげる 9:30~11:30 (学会館)
 - ・演者: 宮本真巳 (東京医科歯科大学)
 - ・座長: 村上明美 (日本赤十字看護大学)

■ 3. 日程概要

	9:30	11:00	12:00	12:50	13:00	13:40	15:10	16:10	18:00	18:30	20:30
第1日 (3/6)	理事会	評議員会		会場 オリエン テー ション	会長 講演	招聘講演	総会	シンポ ジウム			懇親会
第2日 (3/7)	一般演題 (口演・示説)	昼 食			一般演題 (口演・示説)						
	ワークショップ				ワークショップ						
	9:30	11:30		13:00				17:00			

■ 4. 参加費について

1) 学術集会参加費

前納 ①会員8,000円 ②非会員9,000円 ③学生 (但し大学院生は除く) および一般5,000円

※ 1月23日までに納入の方に限り学会集録を事前に送付いたします。

後納・当日 (1月24日以降に納入の方)

①会員9,000円 ②非会員10,000円 ③学生 (但し大学院生は除く) および一般5,000円

懇親会参加費 5,000円

口座番号 00100-7-576523 第18回日本助産学会学術集会

※郵便振りこみ用紙はお一人につき1枚のご使用をお願いいたします。

※一度振り込まれた参加費は返金できませんのでご了承下さい。

■ 5. 会場へのご案内

6日：東京大学安田講堂（東京都文京区本郷7-3-1）

- ・東京駅からは、地下鉄丸ノ内線「本郷三丁目」まで7分
- ・羽田空港からは、モノレールで「浜松町」、「浜松町」からJRで「東京」に行き、「東京」から地下鉄丸ノ内線「本郷三丁目」まで 約50分

7日：学術総合センター（千代田区一ツ橋2-1-2）学士会館（本館）（千代田区神田錦町3-28）

- ・東京駅からは地下鉄丸ノ内線で「大手町」、「大手町」から地下鉄半蔵門線で「神保町」まで7分
- ・東京駅北口からタクシーで会場まで約10分
- ・羽田空港からは、京急・都営浅草線で「泉岳寺」経由「三田」、「三田」から都営三田線で「神保町」まで約50分

■ 6. 宿泊先のご案内

JTB日本橋支店（担当：渡辺／TEL：03-3273-8251）に直接、ご連絡下さい。

■ 7. 連絡先

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 リプロダクティブヘルス看護学分野
 第18回日本助産学会学術集会事務局（清水） TEL/FAX：03-5803-5347

ご 案 内

**Australasian Midwifery Expo 2004
 Voices Coming Together**

会議名	テーマ	開催期間	開催地	主催機関	抄録募集	詳細について連絡先
NEW Australasian Midwifery Expo 2004	Voices Coming Together	8月26日(木)～ 28日(土)	オーストラリア、 アデレード	C&N Project People	2003.10.31まで	C&N Project People, PO Box 82, Seacliff Park, SA 5049, Australia E-mail: cnprojectpeople@hotmail.com URL: http://www.cnprojectpeople.com

平成15年度助産学会ワークショップのお知らせ

日本助産学会学術振興委員長
加藤 尚美

今回は、臨床助産学研究をこれから目指す者と自立して研究している者とがともに学び、今後
に研究がより進展できるようにと企画しました。

午前は、「ケアの質的向上のための助産学研究の進め方」について聖路加看護大学堀内成子先生
に基調講演をして頂きます。午後は各テーマ毎に4領域のワークショップを行いたいと思いま
す。皆様、多くの参加を期待しています。

テーマ：ケアの質的向上のための助産学研究の進め方

開催日時：平成15年11月15日（土）9時30分～16時

開催場所：京都府立医科大学医学部看護学科 第1講義室

基調講演1：午前9時30分～11時

「ケアの質的向上のための助産学研究の進め方」

聖路加看護大学 学部長 堀内成子教授

ワークショップ：午後13時～16時

グループワーク

1) 助産ケア実践の検証に関する研究（妊婦、産婦を対象とした）

コーディネーター：柳吉 桂子¹⁾

2) 助産ケア実践の検証に関する研究（褥婦と新生児・ハイリスク新生児を対象とした）

コーディネーター：島田三恵子²⁾

3) 助産学教育に関する研究

コーディネーター：加藤 尚美³⁾、松岡 知子⁴⁾

4) 育児における人間環境に関する研究

コーディネーター：宮中 文子⁴⁾

- 1) 京都大学医療技術短気だ医学部、2) 浜松医科大学医学部看護学科、3) 沖縄県立看護大学、
4) 京都府立医科大学医学部看護学科 (医療技術短期大学部)

参加方法：参加される方は、所属とお名前、連絡先、希望するワークショップのグループ番号を
ご連絡下さい。連絡方法は、葉書、FAX、メールのいずれでも結構です。なお、準
備の都合上、11月7日（金）までお願い致します。

参加費：3,000円（資料代含む）会員、非会員

参加費振り込み先：郵便為替 口座番号：00970-0-265370

加入者名：第19回日本助産学会学術集会

連絡先：京都府立医科大学医学部看護学科

母子看護学・助産学部門 宮中 文子

〒602-0857 京都市上京区清和院口寺町東入中御霊町410

TEL・FAX：(075) 212-5440

E-mail：mijanaka@cmt.kpu-m.ac.jp

●●●委員会報告●●●

国際委員会

〈ICMの動向および関連活動〉

◆新しい事務局長が決まる

現事務局長のペトラ・テン・ホッパーベンダーさんが辞任を申し出たため、ICM理事会は新任者を選考しておりました。その結果、キャシー・ヘルシェデルファ (Ms.Kathy Hershderfer) さんを新事務局長として2003年12月1日から迎えることになりました。ヘルシェデルファさんについて簡単にご紹介します。彼女は、合衆国に生まれ、広く世界中を旅し、スペイン語、フランス語はもちろん多くの言葉を話します。1980年代始めにオランダで助産師となり、最近までライデンの研究部門におられました。ICMの中では1999年からジェーン・サンドラ博士とともにICM研究常設委員会のメンバーとして活躍されています。また、助産師としては、独立開業助産師としての実績と同時に、研究および助産師教師としても最高の実践が提供できるよう勤められてきました。研究プロジェクトの面では国内でも国際的にもネットワークを開発し、基金を獲得され、ICM研究常設委員会の共同議長としても活躍中です。

ICM地球戦略に対する彼女の考えは、次の4つのAのキーワードを基づいているということです。「女性と助産師両方にとっての自律性 (Autonomy)」「ケアの質の保証 (Assuring)」「リプロダクティブ・ヘルス分野においてICMが権威 (Authority) を持つこと」「女性と家族の健康を促進するために、複数のレベルでかつ多種多様な機関との提携を結ぶ (Alliances)」

現任のペトラさんにこれまでの働きを感謝するとともに、新任のキャシーさんにこれまでの実践と研究業績に基づいたグローバルな活動に期待したいと思います。

◆第7回ICMアジア太平洋会議 (香港) のお知らせ

前号でもお知らせしましたが、再度掲載させていただきます。助産学会では別紙のようなツアーを組んでおりますので、ふるってご参加下さい。

最新情報は、<http://www.midwives.org.hk/>をご覧ください。

◆第7回ICMアジア太平洋会議 (香港)、インド助産師会へのスポンサー依頼

インド助産師会より、上記会議でのワークショップへの1名の参加についてスポンサー依頼が本会および日本助産師会にありました。そこで、紙面理事会により1名分のサポートを2つの会から行うことになりました (合計10万円)。

◆ICMニュースレターの紹介 volume16-number4 July/August2003の記事より

『助産師による出産ケア』を基本とすることの推進

Mary Ann Shah (President of the American College of nurse-midwives) の報告

昨年シャーさんが直面した、助産師に関して気になっている3つの事柄がまとめられています。

1. 助産師の世界的な関心について

2002年4月、第26回ICMウィーン大会において、私は発展途上国から参加した助産師に大いに啓発されました。それは、彼女たちが多く問題や困難に直面しているにも関わらず、助産師の重要な必須能力として、知識・技術・態度と証拠に基づく助産実践の概念を証明していこうとする姿勢に刺激されたからです。基準が高すぎるという少数意見もありますが、むしろ助

産実践を卓越した専門的技術にする努力をしなければならないという考えの方が多くの助産師の同意を得ているようです。

2002年6月、私はメキシコでのカンファレンスでさらに進んだ見識を得ました。それは世界的にも有名なある医師の論評です。彼は、女性の健康や母性の安全を主張して女性のケアをするのは、助産師の思いやりのある専門職としての能力で、助産師が行うことこそが重要だと結論づけたのです。また「産ケア対医療ケア」ではなく、「人間性対科学技術」という論点に枠組を組みなおすことを我々に示してくれました。私も彼の意見に賛同します。このように「人間性対科学技術」に言い方を変え、とらえなおすことで助産師を孤立化させることなく、同じ考えをもつ他職種を取り込んで連携していくことが可能になるからです。

2. 帝王切開

我々助産師にとって最近非常に関心が高まっている帝王切開のことについて述べます。ラテン・アメリカやヨーロッパ、アジアの多くの地域で帝王切開率（以下C/S率）が40%を越えているという事実があります。アメリカの疾病予防管理センター（CDC）の最近の報告によれば、2002年度のC/S率は、2001年度の7%から26.1%に一気に増加しています。プエルトリコでは44.7%のC/S率と報告されています。また前回帝王切開後の経膈分娩は、23%に減少しています。反対にサハラ砂漠以南のアフリカ諸国では、C/S率は5%以下という驚く程低いのが現状です。これはC/S率の高さは、社会経済的な状況に関連していることを表わしています。過度の医療介入は、むしろ富裕の害と言えます。一方、妊産婦死亡が非常に多い地域では必要な帝王切開が行われていない現実があります。1985年WHOは、C/S率を15%以下におさえることを奨励しています。この数字は、科学的に医療が行われている地域で一般的に受け入れられているものです。昨年のICMウィーン大会において、この件に関する所信声明がイギリスやオーストリアの助産師協会から提案され、多くの国の助産師協会からも支持されました。ICMは女性に対する根拠のない帝王切開の現状に遺憾を示しました。要約すると、ICMは国家レベルにおいて不必要な帝王切開をやめるよう助産師たちがお互い助け合うことを、また女性一人一人の主体性が尊重されるよう助産師が働きかけることを支持するとし、適切な帝王切開に関して他の医療職と協力していくことを求めました。

3. 助産師に対しての声

助産師として我々は、国内的にも国外的にも、またヒエラルキー構造の中においても、生活し働いている地域社会の中で、意思決定の力を広めていくよう共に活動していかなければなりません。ICMの所信声明は、助産師同士が影響し合い、励まし合い、助け合うことを強調しています。このことを効果的に達成していくためには、ケアの受け手に対しても助産師同僚に対しても、また意思決定をする人、管理する人に相手を尊重し大事にしていかなければなりません。私は、産ケアに関して確固たる科学的根拠を導き出す必要があると思います。産ケアの技術と思いやりのある助産師のケアは、単に安全であるばかりだけでなく、人間性の欠如や自然経過をさまたげる過度の医療介入など出産を取り巻くさまざまな問題、またそれから連鎖しておこる人間関係の断絶などをも解決していくことができると我々助産師はわかっているからです。我々は、出産が過度の医療介入なく、必要な時に安全な医療を安心して受けられるという保証のもとに、女性は子どもを産む力があるということを信じ、助産の「わざ」と科学が正しい調和を保つことによって、産実践は、世界の女性に対して最も高い基準（Gold Standard）になることができるし、またそうなるべきなのです。

（石川 紀子訳）

〈国内の動向および活動〉

◆日韓合同学術フォーラムの報告

去る7月8日(火)から10日(木)に、本学会としては初めての海外の学術団体との交流となりました「日韓合同学術フォーラム」は双方とも稔り多き機会となりました。

【1日目】2003年7月8日(火) 矢島助産院見学

【2日目】2003年7月9日(水) 聖路加看護大学にて地域母子保健に関する意見交換

【3日目】2003年7月10日(木) 横浜女性フォーラム見学

ご理解・ご協力下さった会員、各施設の皆さまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

◆第6回世界周産期学会・助産プログラム報告(大阪国際会議場)

2003年9月14、15日、大阪の国際会議場で世界周産期学会の助産部門が開催された。正確な数字は把握していないが、参加者の約1/4が助産師だったようである。私は助産部門を企画をしたプログラム委員の一人として、この学会の一端を報告させていただくことにする。

助産プログラムのメインテーマは「女性中心の助産ケア」であった。今回の特徴として、国の内外を問わず助産院や自宅出産に関する内容が多かったことと、女性学やセクシュアリティと助産の関連について語られたことが挙げられる。どの講演者もすばらしい講演を披露してくれたのだが、中でも女性学者のバーバラ・カッツ・ロースマン氏(米国)とマタニティ・サービスの改善団体の代表であるビバリー・ビーチ氏(英国)は医療者でないにもかかわらず、病院出産と自宅出産の違いや出産の本質を理解している点で秀逸であった。

ロースマン氏は米国の自宅出産運動や伝統的な助産、あるいは医学的訓練を受けた助産などの研究を行っており、氏自身も自宅出産の経験を持っている。彼女は、助産師に必要な特性、つまり、対象の考えや行動を尊重し温かく見守ること、対象を否定せず全てを受け入れること、それでいて危険が予測されるような時にはすぐさま介入をするということ、初めて自転車に乗ろうとする幼児を見守る母親に喩えて、説明してみせた。また、彼女は、病院勤務の助産師と自宅出産を受け持つ助産師では、仕事の内容が全く違うので別の職業と考えた方がいいと述べたのである。

ビーチ氏は納得できなかった悲惨な自分の出産体験を怒りの原点として、女性の出産が少しでも改善するようにAIMS (Association for Improvements in the Maternity Services) という圧力団体に入り、25年間医学論文を読み漁ってきたという経歴を持ち、水中出産の本も編集している。彼女の話は、多数の科学的な研究結果に基づいている。例を挙げると、ルーティンの会陰切開は分娩時間の数分の短縮以外に何のメリットもないことがわかったので、AIMSが政府に意義を唱えて中止に持っていったこと、超音波検査は安全であるという証拠や長期的な影響についての研究がなく、流産の危険性があるということで、妊娠中の検査は3回で十分であること、帝王切開後の経膈分娩は、薬剤を使用した誘発・促進により子宮破裂の危険性が高まるが、そうでない場合は特に条件がないことなどが示された。彼女は、自宅出産を女性のオプションとして提供することが重要で、そのために助産学生は少なくとも3回は自宅出産を受け持つことが必要であると主張した。

その他、産婦人科医の経験を持つ疫学者の林謙治氏の帝王切開に関する講演は、興味深いものであった。林氏は、日本における帝王切開率は日本海側より太平洋側の方が高く、地域差がみられること、また、金曜日と年末に帝王切開が増えることがわかったと述べ、産婦人科医の帝王切開の適応に疑問を投げかけた。

助産教育のセッションから他国の助産教育の現状を述べると、ニュージーランドでは全ての助産教育がダイレクトエントリーで行われ、学生は自宅出産40件を扱うことになり、カナダでは3州でダイレクトエントリーが行われており、学生は60件の分娩介助を行うが、そのうち40例は自然分娩であり、30例は継続ケースである。英国では半分がダイレクトエントリーであり、分娩介助が40例である。

最後に、助産学を修士で教えているパトリシア・バークハット氏(米国)の「助産の本質は自宅出産にある」という認識を示して、報告を終えたいと思う。(山本 令子)

第7回 ICMアジアパシフィック会議 香港

前略 標記会議が今年11月香港にて開催されます。

以下のとおり、ご出席プランをご案内申し上げますので、多数のご参加をお待ち致しております。

草々

企画：日本助産学会

ご 日 程

2003年10月10日

日次	月 日	曜	都 市 名	交通機関	時刻	摘 要	食 事	
1	11月26日	水	東京(成田) 香港	発 着	CX501 (Y)	10:55 15:10	キャセイ航空、直行便にて 香港へ 専用バスにてホテルへ	昼：機内 夕：
2 3 4	11月27日 11月28日 11月29日	木 金 土	香港滞在				ICM アジアパシフィック会 議ご出席	朝：ホテル 昼： 夕：
5	11月30日	日	香港 東京(成田)	発 着	CX500 (Y)	15:20 20:05	出発までフリー、 午後：専用バスにて空港へ キャセイ航空にて空路帰国 の途へ	朝：ホテル 昼： 夕：機内

備考：(Y) エコノミークラス

航空会社：キャセイ航空

ホ テ ル：SHERATON HOTEL (会場ホテル)

参加費用：¥126,000.-

*ご旅行申込締切日：2003年11月7日

●問い合わせ先

- ・(株)ケイ・コンベンション (担当：荒木 憲治)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-31-3-409

TEL：03-5367-2382 FAX：03-5367-2187

E-mail：araki-ken@k-con.co.jp

- ・日本助産学会事務局

〒102-0071 千代田区富士見 1-8-21 東京都助産婦会館内

TEL：FAX 03-3221-0417

E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp

日本健康科学学会シンポジウムのご案内

安全で安心できる健康食品とは ～サプリメントの理解と適切な利用から～

シンポジウム実行委員長・日本病院管理学会第222回例会担当

信川 益明 (日本健康科学学会会長)

【日 時】 平成16年2月7日(土) 10:00～17:00 (受付開始 9:00～)

【会 場】 東京医科大学病院 臨床講堂 6階 (椅子席320名)

〒160-0023 新宿区西新宿6-7-1 TEL:03-3342-6111

【申込先・問合せ先】 日本健康科学学会シンポジウム事務局

〒164-0001 中野区中野2-2-3

(株)へるす出版事業部内

TEL 03-3384-8037 FAX 03-3380-8627

*** 募 金 の お 願 い ***

本学会では、下記の募金を受け付けています。会員のみなさまのご協力をお待ちしています。

* ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) の募金について

発達途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

振込先 郵便局 口座番号 00190-8-710931 日本助産学会国際基金 一口2,000円

* 日本助産学会 セーフマザーフード基金

世界で妊産婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。

振込先 郵便局 口座番号 00240-8-6818 一口1,000円

(会計:岸田)

NEWS! 学会ホームページが刷新! アドレスも変更されました

2001年秋から日本助産学会でもホームページを開設し、会員の皆様や医療・教育関係、関連団体・機関の方々に、当学会の活動をお知らせしてまいりました。

この度、ホームページの管理を事務局で行うことができるようになり、ページも刷新されました。今まで以上に、up-to-dateな情報発信が可能になります。年3回のニュースレター・学会誌の発行では盛りきれなかった「今」の情報を会員の皆様にお届けできるよう、事務局はスタンバイしております。一度新しくなったホームページを訪ねていただけますよう、お待ちしております。

新しいアドレス ⇒ <http://square.umin.ac.jp/jam/>

* 第18回学術集会のご案内も、学会ホームページからリンク可能です。

* 今までホームページの管理をお願いしていた「専門医ネット」のホームページからも当学会へリンク可能です。

* ホームページに関するお問い合わせ・ご意見は、事務局(杉山ちよ子)までお願いします。

(庶務:多賀)